支援化確認事業「ソルガムを原料とするバイオジェット(SAF)生産の事業性調査」【実施報告】

2026年9月にソルガムの播種作業が完了しました。オマーンの首都マスカットから西へ約40km離れたオマーン湾沿いに位置するNama Water Services（*1）の一角にソルガム栽培試験場が整備されました。ソルガムが順調に生育すれば12月中には3～4mまで育ち、そのタイミングで一回目の収穫を計画しています。

オマーンでの播種作業の前に、8月7日にオマーン国営の総合エネルギー企業であるOQがJCCPを訪問し、中部電力株式会社と本事業に関する協議を行いました。この協議にはアイシャ・サハル・アルカルシィ駐日オマーン・スルタン国臨時代理大使も同席され、本事業へのサポートを表明されました。

本事業は、JCCPとOQが中部電力株式会社と日揮グローバル株式会社の参加のもと、イネ科植物であるソルガムをSAF（持続可能な航空燃料）の原料とする取組です。ソルガムは高い環境耐性と速い成長速度を持ち、サトウキビと同等以上のエタノール生産力を備えています。（*2）

*1）Nama Water Services：オマーン全土の上水供給および下水処理サービスを担う国営の事業会社

本事業の関連記事はこちら
*2）世界が揺れる今だからこそ知ってほしい、JCCPが紡ぐ産油国との「信頼の絆」
https://www.jccp.or.jp/pickup/columns/journal1/



2026年9月 ソルガム播種作業



2026年8月7日 JCCPにて協議
OQ、臨時代理大使、中部電力及びJCCP



中部電力　津田その子バイオグループ長

©2026 Japan Cooperation Center for Petroleum and Sustainable Energy（JCCP）